



公認心理師・臨床心理士のための専門講座(全4回)

本学では2018年度より公認心理師養成カリキュラムを始動させましたが、本年度は新カリキュラムの学生も4年生となりました。皆様には心理実習・インターン等を通じて、多大なご理解とご協力を賜り深くお礼申し上げます。

専門職にとって日頃の研鑽は欠かせないものですが、遠方に出かけて学ぶことが困難な状況が続いています。人間学部心理コミュニケーション学科では、本年度より臨床心理学を専門とする教員2名を迎え、教育の充実を図っており、この度、全4回の専門講座を企画いたしました。毎回、180分の講座で、本学教員と学外ゲスト講師が同一のテーマで研修を行います。感染予防の対策を取って対面で行うことを予定していますが、状況によってはZoomミーティングによる遠隔配信となります。本講座が皆様の臨床活動の一助となり、心理専門職の交流の場となりますことを祈っています。

参加者：1~3のいずれかに該当する方

- 1) 公認心理師資格・臨床心理士資格のいずれか、または両方の資格所持者
- 2) 現在、職業として心理相談業務を行っている方
- 3) 公認心理師・臨床心理士取得を目指して大学院に通っている方

参加費：全4回シリーズ 4000円 *各回ごとの申し込みはしていません。

会場：第1・2・3回 清泉女学院大学東口キャンパス（長野駅東口より徒歩1分）

駐車場はありませんので、公共交通機関を使用してお越しください。お車をご利用の場合は近隣の有料駐車場をご利用ください。1月22日(土)の会場はありません。ZOOM配信のみとなります。

- 留意点：①対面による実施の場合（第1・2・3回）、新型コロナウイルス感染症の予防のため、受付等に消毒用アルコールを設置しますので、手指消毒にご協力ください。受付等にて非接触型の検温にご協力ください。教室の換気を励行します（建物により、空調で換気できる場合は窓の開放を行わない場合があります）。37.5度以上の発熱がある場合、また風邪の症状、倦怠感、味覚・嗅覚異常などがある場合は、軽い症状でもご参加をお控えくださいますようお願いください。マスクの着用にご協力ください。各自着衣の着脱による温度調整にご協力ください。
- ②第1・2・3回においても新型コロナウイルス感染症の状況によって、ZOOM開催となる可能性があります。ZOOMに関するサポートはありませんので各自でご準備ください。
- ③第1・2・3回においてZOOM開催となる場合は、本学ホームページと申込み時に登録していただいたメールアドレスにお知らせいたします。
- ④臨床心理士継続研修ポイントを申請する予定です。第1・2回の出席⇒2ポイント、第3・4回の出席⇒2ポイントとなる予定です。手続き上、研修中に出席を取らせていただきます。

申込み：専用フォームにて申し込みください。

<https://sites.google.com/sjc-nagano.ac.jp/academickouza-2021aki/>

SJC アカデミック

検索



お問い合わせ：

- ①内容について 人間学部心理コミュニケーション学科心理コース seisen-psycho@sjc-nagano.ac.jp
- ②申込み・入金方法・会場等について 清泉女学院大学地域連携センター牧野まで
電話 026-295-1325（直通）E-mail chiiki@seisen-jc.ac.jp

第1回

10/31 (日) 13~16時 発達領域のコミュニティ臨床



山崎 晃史 (清泉女学院大学人間学部)

× 金子 まどか (相談支援センターYEAST)

ある地域における実践を元に、発達支援の新しいかたちをご紹介します。それは、児童の日常生活や学びの場に即して取り組むコミュニティ心理学的実践です。昨今、発達支援領域で「切れ目のない縦横連携」が重要なテーマになっていることはご存じでしょうか？この縦横連携に心理援助職がしっかり参画していくためのヒントにもなると考えています。



第2回

11/14 (日) 13~16時 現代における偏見を考える：社会心理学からの観点



石井 国雄 (清泉女学院 心理コミュニケーション学科長)

× 田戸岡 好香 (高崎経済大学 地域政策学部)

現代社会においてはダイバーシティ (多様性) の重要性が叫ばれる中、ジェンダーギャップ、在留外国人に対する不当な扱いなど解決されていない偏見・差別の問題があふれています。今回は2名の社会心理学者から、偏見・差別研究の近年の動向を紹介しつつ、ダイバーシティ推進に向け社会実践および心理実践はどのようにあるべきか議論していきます。



第3回

12/19 (日) 13~16時 交通死亡事故に対して心理師は何ができるか



岡本かおり (清泉女学院人間学部)

× 鶴田 信子 (公益社団法人被害者支援都民センター
／トラウマ・グリーフケアオフィス)

交通事故で大切な人を亡くし、圧倒されるような深い悲しみと喪失のただ中にあるクライアントを前にした時、私達に何ができるのでしょうか。学校での緊急支援、民間相談機関での遺族支援についての臨床経験をシェアしつつ、心理職にできる遺族支援について考えます。



第4回 ZOOM 開催

1/22 (土) 13~16時 子どもから青年期に対する認知行動療法の実際



富島 大樹 (清泉女学院人間学部)

× 高橋 史 (信州大学学術研究院教育学系)

本講座では、認知行動療法の理論や技法の近年の発展、そしてそれらを実際の事例にどのように適用するかについて紹介します。今回は、子どもの事例 (高橋史) と青年期の事例 (富島大樹) を取り上げ、実際の事例に適用する際に生じる困難や、工夫について紹介し、フロアのみならずと活発な議論の場となることを期待しています。

